Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

NICU看護師を対象とした早産児・ハイリスク新生児への相対的医行為を含む現任教育プログラムの開発と評価

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小西, 美樹 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/30644

主 論 文 の 要 約

NICU 看護師を対象とした早産児・ハイリスク新生児への相対的医行為を含む
現任教育プログラムの開発と評価

東京女子医科大学大学院
社会医学系専攻医学教育学分野
（指導：高桑雄一教授）
小西　美樹

Advances in Neonatal Care 誌に投稿予定

【目　的】

医学教育に用いられる成人学習理論を応用し、NICU 看護師を対象とした早産児・ハイリスク新生児への相対的医行為を含む教育プログラムを開発し、教育効果を評価した。

【対象および方法】

NICU で 2 年以上勤務する看護師 32 名を二群に分け、介入群に Problem-based learning 及び Team-based learning を含む 5 日間の教育プログラムを実施した。研修前後に新生児医療の学識を問う筆記テスト、足底採血と手背からの静脈採血及び末梢静脈路確保の実技テスト、医師と看護師の協働意識と職務満足度の尺度でデータ収集し、二群間で比較した。介入群は 3 か月後と 6 か月後まで追跡し、群内での変化を検討した。研修後の臨床実践の変化を明らかにするため、採血等の実施の実態調査と研修 1 年半後に面接調査を行なった。

【結　果】

介入群 16 名、対照群 12 名を分析対象とした。介入群における筆記テストの平均点は研修前に対して直後、3 か月後、6 か月後で有意に上昇した。足底採血の実技テストの合格率は研修前に対して直後、3 か月後で有意に上昇した。手背からの静脈採血及び末梢静脈路確保の実技テストの合格率は研修前に対して直後で有意に上昇した。

「看護師の仕事の価値のおき方と満足度」の下位尺度「仕事上の人間関係」は研修前に対して直後で有意に下降した。「看護師としての自己実現」は研修前に対して 6 か月後に有意に上昇した。

研修後、採血手技を新たに始めた者はわずかで、末梢静脈路確保を新たに始めた者はいなかった。面接調査では臨床実践で感じる自身の能力の変化として「患者への貢献」「医師との連携・関係改善」「医療チームへの貢献」「自己への気づき」が語られた。看護師の役割拡大に必要なことは「医師と看護師には異なった役割があることへの理解」「要求される知識と技術を体系的に獲得できる教育体制」であった。

【考　察】

筆記テスト得点は有意に向上し、6 か月後まで高得点は継続、技術テスト合格率は有意に向上したことから、本教育プログラムには NICU 看護師の学識と技術の習得に一定の効果があった。特に足底採血の実技テストは合格率が高く、容易に習得可能な技術であった。末梢静脈路確保は難易度が高いと思われたが、研修後半数以上が習得した。これらの手技は新生児医療の基本処置であり、後遺症なき生存のために必須の技術である。看護師による実践が普及することで患者への恩恵につながる。

研修による医学的な思考や技術の体験は医師の立場への理解につながり、医療チームの橋渡し的役割の可能性が期待される。一方で、新たな知識・技術の実践への導入に関して同僚や上司との葛藤が語られ、成人学習の特徴として学習結果が活用されないと負の教育効果を及ぼすことが示唆された。

【結　論】

新生児医療へのニーズが高まる中、看護の役割拡大は必須である。本研究では NICU 看護師の役割を現行法範囲内で拡大し、人材活用するための教育プログラムを試験的に開発し、一定の成果を得た。